

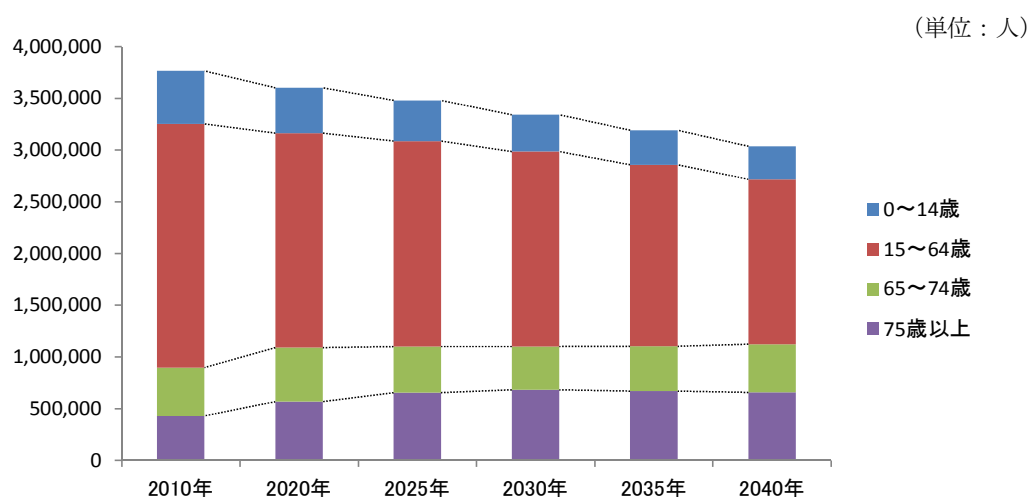
第2章 保健医療の現況

第1節 人口

1 総人口

- 本県の総人口は、2016年10月1日現在、3,686,945人（男1,815,082人、女1,871,863人）で、日本の総人口の約3%を占めています。
- 本県では、2007年12月の379万7千人をピークに人口減少局面を迎えています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、人口減少のスピードは、2010年から10年ごとの減少数が、16万4千人減、25万8千人減、30万8千人減と徐々に加速していくと推計されます。
- また、単に人口が減少するだけでなく、人口構造そのものが大きく変化していきます。高齢者人口が増加するとともに、少子化が進行する中で生産年齢人口は減少し、急速な高齢化が進行していきます。
- 団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、本県においても、県民の約5人に1人が75歳以上になると予測されています。

図表2-1：静岡県の年齢階級別将来推計人口

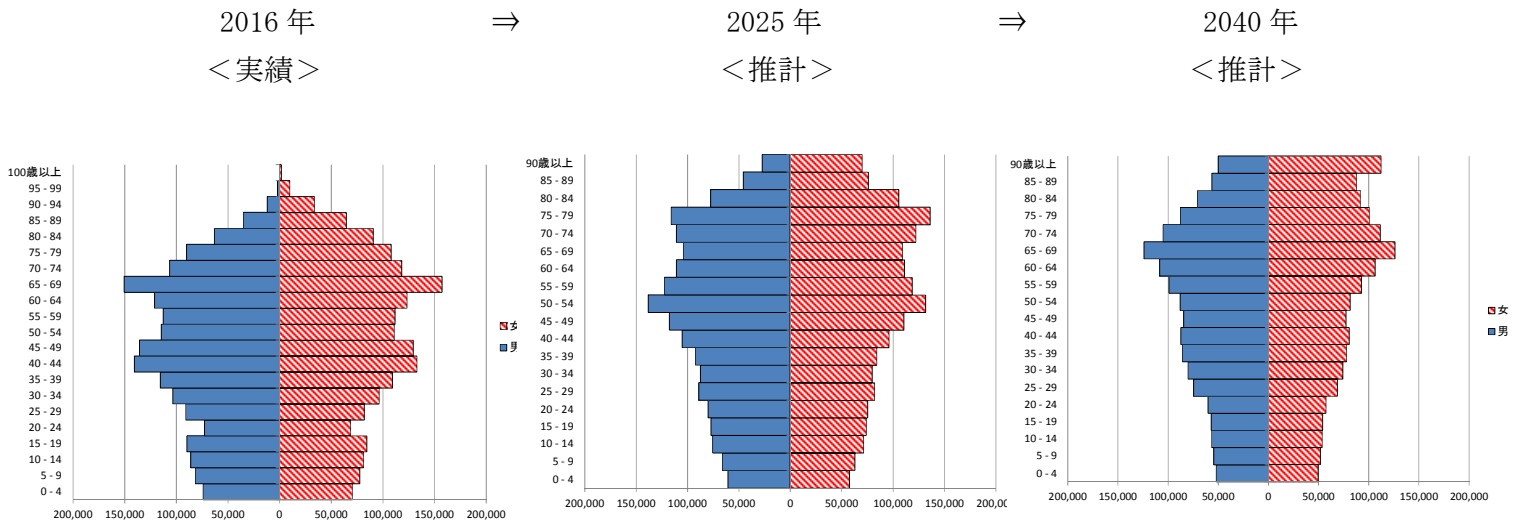


	2010年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	512,005	436,943	394,263	357,195	334,227	317,828
15～64歳	2,356,056	2,074,383	1,984,786	1,885,103	1,755,854	1,594,367
65～74歳	465,015	522,445	446,686	417,063	431,355	466,513
75歳以上	431,936	567,350	654,598	683,197	671,297	656,651
総数	3,765,007	3,601,121	3,480,333	3,342,558	3,192,733	3,035,359

※2010年は実績。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月中位推計）」

図表 2 - 2 : 静岡県における人口構造の変化



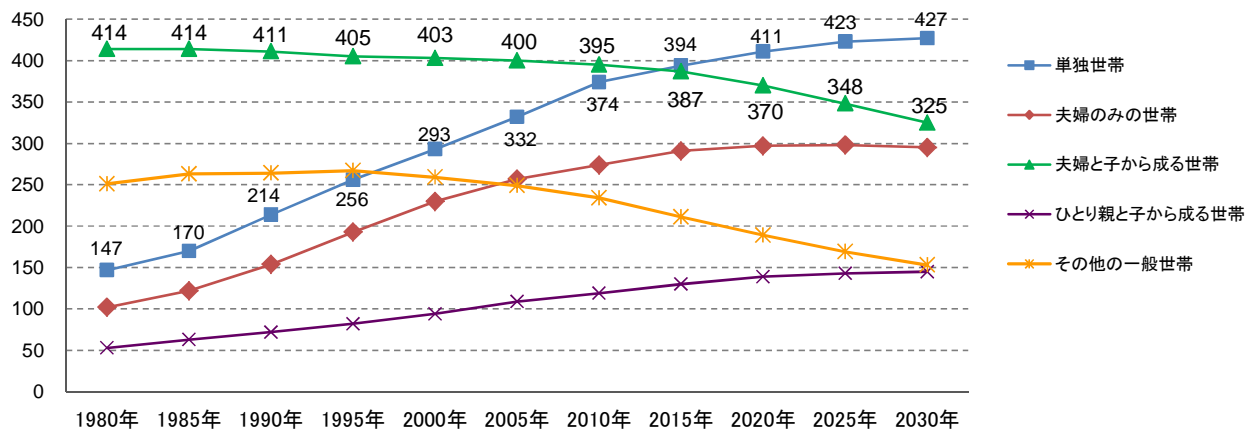
2 世帯

(1) 家族類型別世帯数及び割合

- 本県の世帯数は、2015年の141万世帯から減少に転じるとともに「単独世帯」数が類型の中で最大となり、その構成比は2025年には30.6%、2035年には32.6%まで上昇すると推計されています。
- 人口と同様に世帯数も減少していきませんが、世帯の構成の中で「単独世帯」数は2030年の42万7千世帯まで増加を続けると推計されています。
- 「夫婦のみの世帯」数は当面増加しますが、単独世帯数ほど急速ではなく2025年以降は減少に転じ、「夫婦と子から成る世帯」数は既に減少を開始しており今後も減少し続けると推計されています。

図表 2 - 3 静岡県の家族類型別世帯数の推移

(千世帯)



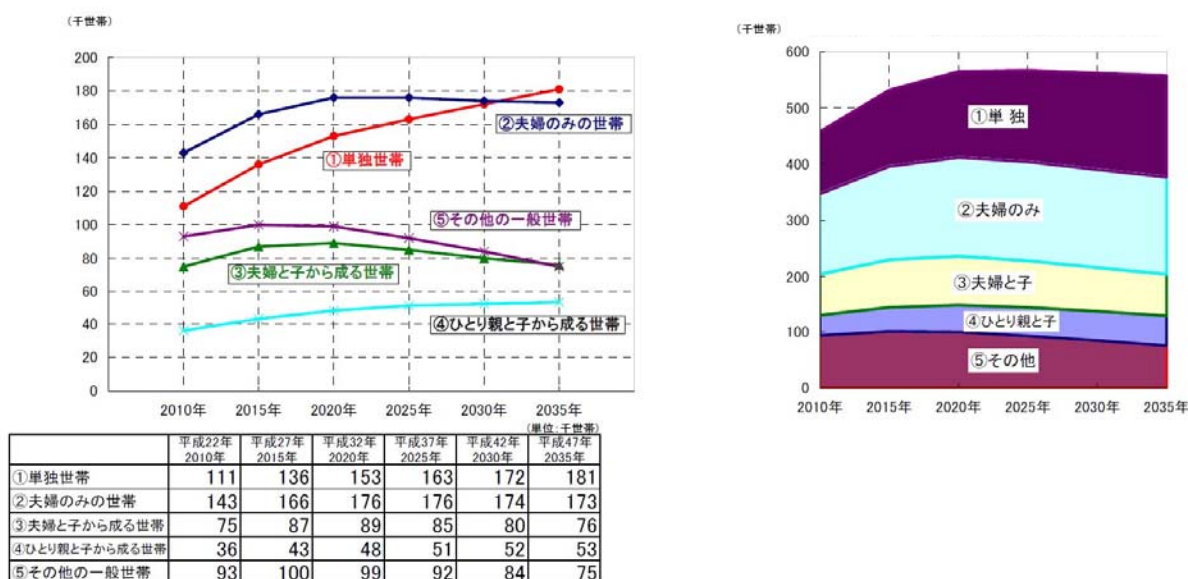
(資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(平成26年4月推計)」、総務省「国勢調査」)

(2) 高齢者世帯

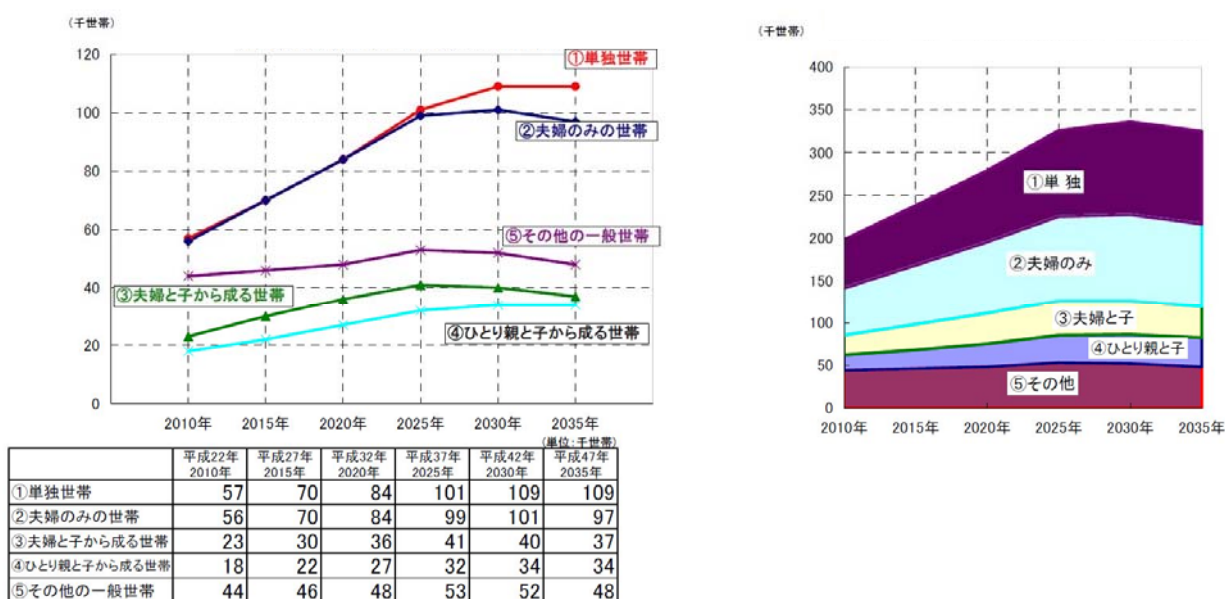
○世帯主が65歳以上の一般世帯の総数は、2010年の45万8千世帯から2025年には56万7千世帯へ、同じく75歳以上の世帯では19万8千世帯から32万6千世帯へと増加し、世帯においても高齢化が進展すると推計されています。

○世帯主が65歳以上の世帯数について、家族類型別に2010年と2025年を比較すると、最も増加するのは「単独世帯」の5万2千世帯増(1.47倍)、次いで「夫婦のみの世帯」の3万3千世帯増(1.23倍)。同じく75歳以上の世帯数については、「単独世帯」の4万4千世帯増(1.77倍)、「夫婦のみの世帯」の4万3千世帯増(1.77倍)と推計されています。

図表2-4 世帯主が65歳以上の世帯数推移



図表2-5 世帯主が75歳以上の世帯数推移

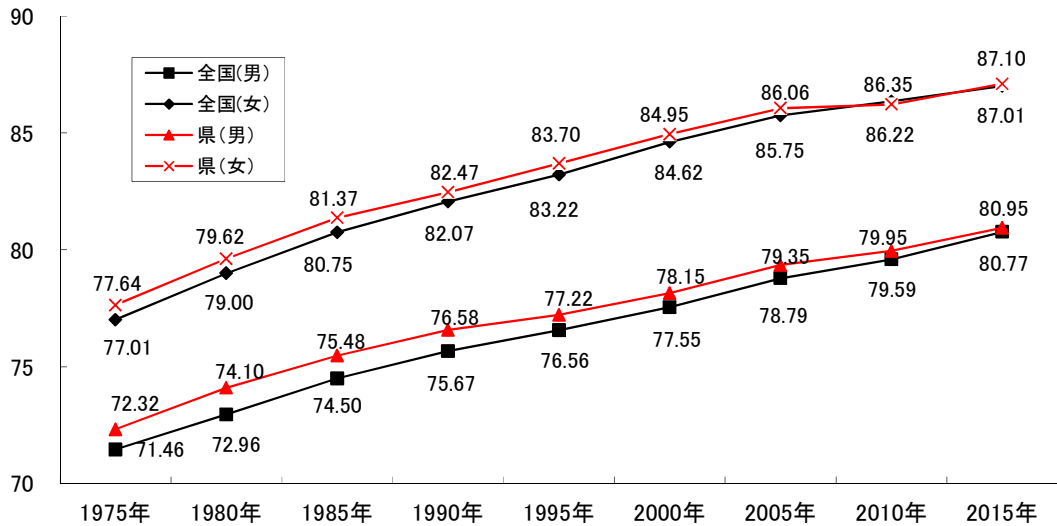


(資料：静岡県企画広報部「静岡県の世帯数の将来推計」)

3 平均寿命と健康寿命

○平均寿命¹は着実に伸びており、2015年現在の平均寿命は男性80.95歳（全国80.77歳）で全国17位、女性87.10歳（全国87.01歳）で、全国24位です（図表2-6）。

図表2-6 平均寿命の推移（本県と全国）



（資料：厚生労働省統計情報部『都道府県別生命表』）

○本県における2016年の健康寿命²は、男性は72.63歳で全国6位、女性は75.37歳で全国13位でした。これまで公表された3回分の平均値では、男性、女性ともに、健康寿命が全国で2番目に長いことが分かりました（図表2-7）。

図表2-7 健康寿命の上位都道府県(2010年、2013年、2016年の平均)

男性			女性		
順位	都道府県	歳	順位	都道府県	歳
1	山梨県	72.31	1	山梨県	75.49
2	静岡県	72.15	2	静岡県	75.43
2	愛知県	72.15	3	愛知県	75.30
4	千葉県	71.93	4	群馬県	75.25
4	石川県	71.93	5	栃木県	75.14
全国		71.25	全国		74.21

男女計
73.82歳
全国2位

資料：厚生労働省公表資料（平成30年3月公表）

¹ 平均寿命：0歳における平均余命（その年の年齢別死亡率で死亡していくとした場合、0歳の者が生きることとなる平均年数）のこと。

² 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと

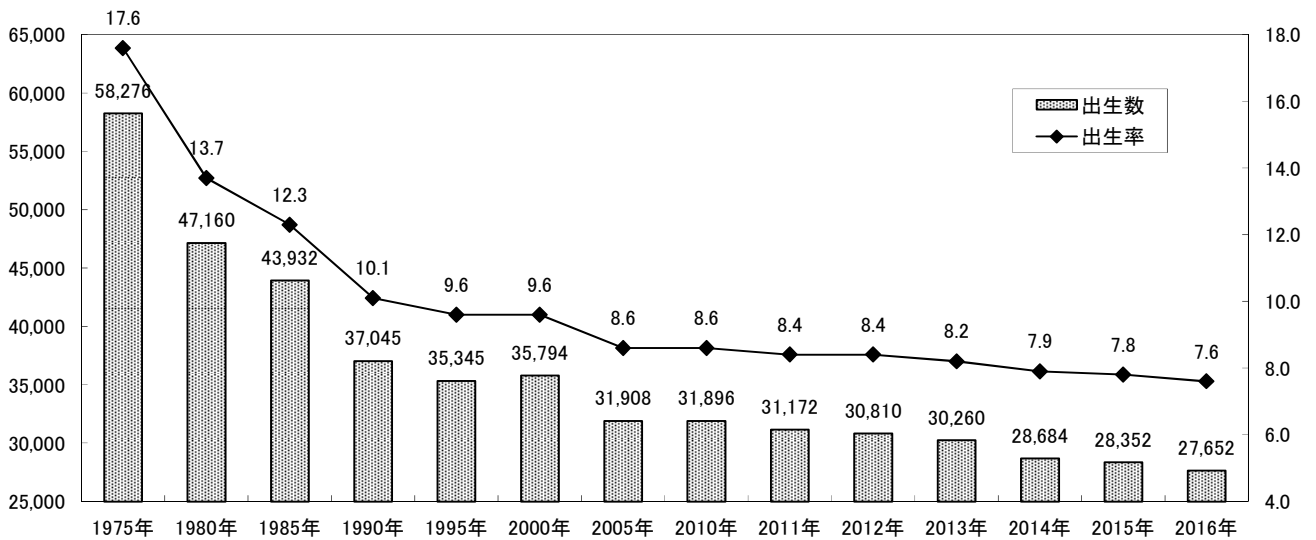
4 人口動態

(1) 出生

○2016年の出生数は2万7,652人で、出生率は人口千人当たり7.6人となっており、出生数・出生率ともに減少傾向にあります(図表2-8)。

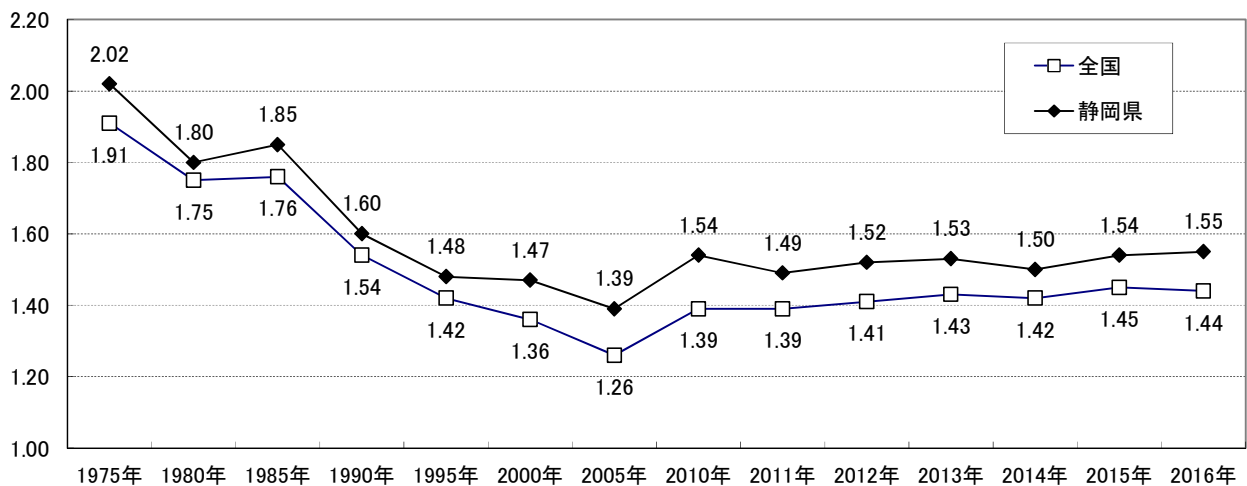
○2016年の合計特殊出生率は1.55で、全国平均の1.44を上回っています(図表2-9)。

図表2-8 出生数及び出生率の推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

図表2-9 合計特殊出生率の推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

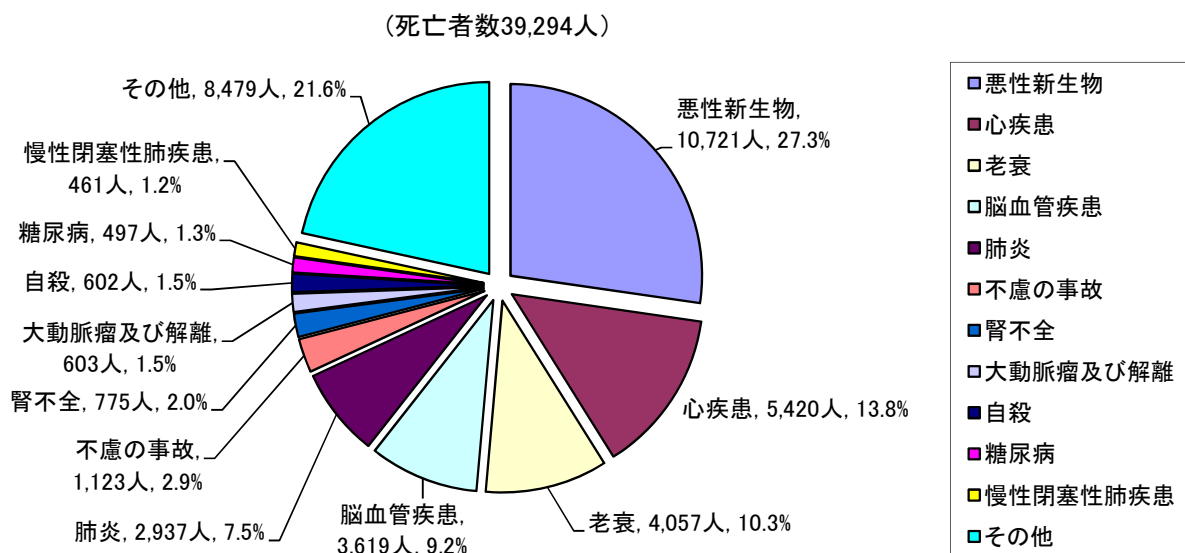
(2) 死亡

○2016年の死亡数は3万9,294人、死亡率は人口千人当たり10.8人となっています。

○2016年の死亡者の死因別状況では、悪性新生物(がん)27.3%、心疾患13.8%、老衰10.3%、脳血管疾患9.2%、肺炎7.5%の順となっており、上位3死因で、全死亡の51.4%を占めています(図表2-10)。

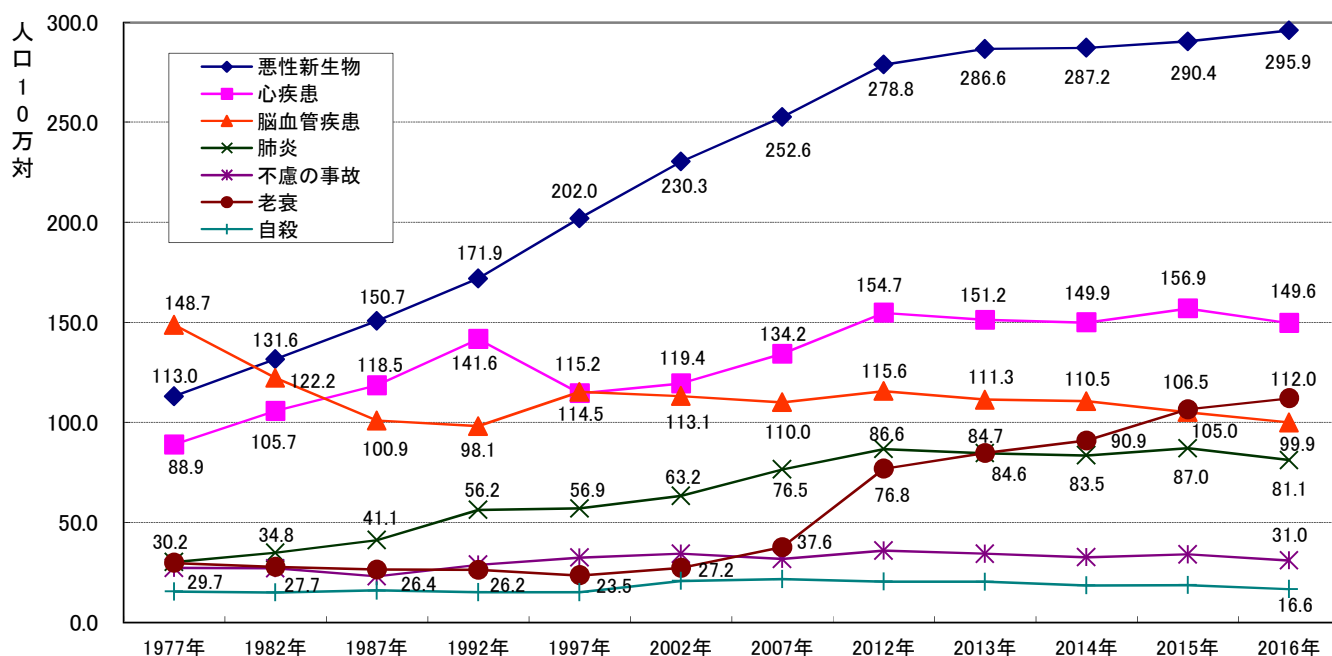
○特に、悪性新生物による死亡者数は全体の3割弱を占めており、死亡率は死因の上位1位として増加し続けています（図表2-11）。

図表2-10 本県の死因別死亡者数（2016年）



(資料：県健康福祉部管理局「静岡県の人口動態統計（確定数）の概要」)

図表2-11 主な死因別の死亡率の推移

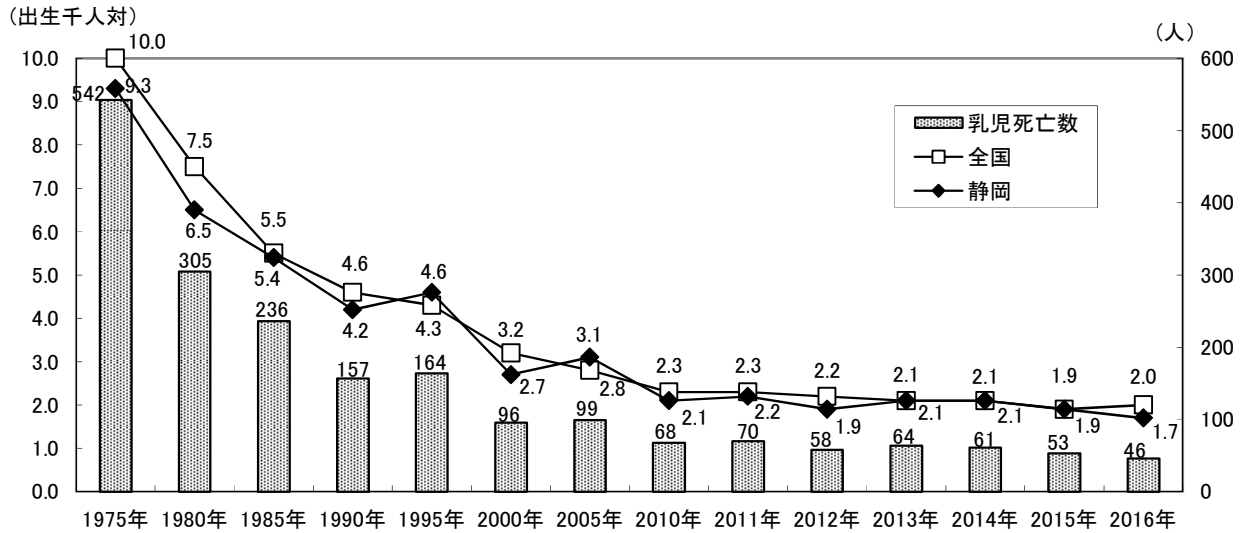


(資料：県健康福祉部管理局「静岡県の人口動態統計（確定数）の概要」)

(3) 乳児死亡

○本県の乳児死亡率（出生千人対）は長期的には低下傾向が続いており、2016年は1.7人となっています（図表2-12）。

図表2-12 乳児死亡率及び乳児死亡数の推移



(資料：厚生労働省「人口動態統計」)

第2節 受療動向

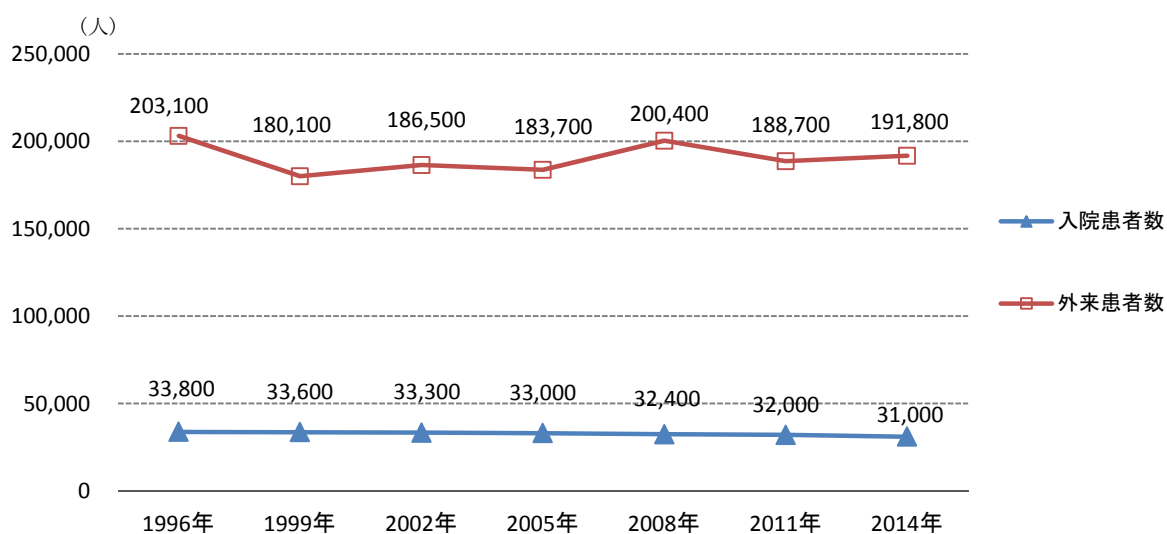
1 患者数

(1) 入院・通院患者の状況

○2014年の厚生労働省の患者調査によると、本県の推計入院患者数は3万1,000人、推計外来患者は19万1,800人となっています¹（図表2-13）。

○外来患者については、病院での受療者数が3万8,100人(20.1%)、診療所が12万200人(63.3%)、歯科診療所が3万1,700人(16.6%)となっています。

図表2-13 入院・外来患者の推移



(資料：厚生労働省「患者調査」)

(2) 疾病別推計患者数

○疾病別の患者数を傷病大分類別にみると、入院については、「循環器系の疾患」が最も多く6,200人、次いで「精神及び行動の障害」が5,600人、「新生物」が3,600人（うち、「悪性新生物」が3,300人）となっています。全体の患者数としては減少傾向となりますが、その中で「神経系の疾患」「呼吸器系の疾患」の患者数は増加しています。（図表2-14）

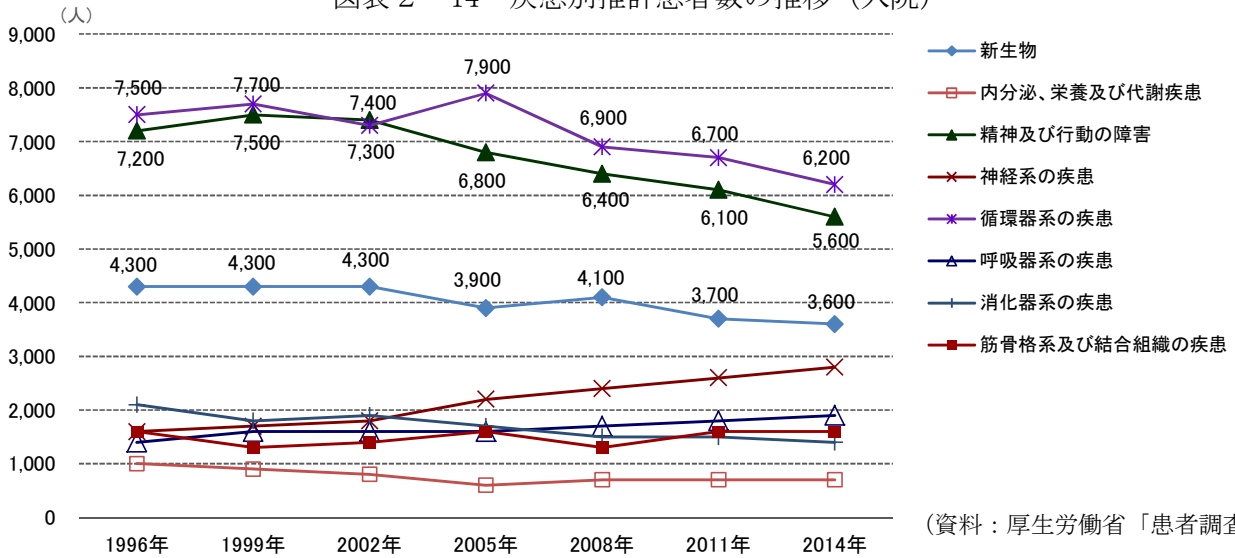
○また、外来については、「消化器系の疾患」が最も多く3万100人、次いで「筋骨格系及び結合組織の疾患」が2万7,100人、「循環器系の疾患」が2万4,500人となっています。（図表2-15）

¹ 患者調査の推計患者数：調査日当日に、病院、一般診療所、歯科診療所で受療した患者の推計数。
平成26年調査では、

病 院：平成26年10月21日(火)～23日(木)の3日間のうち病院ごとに指定した1日

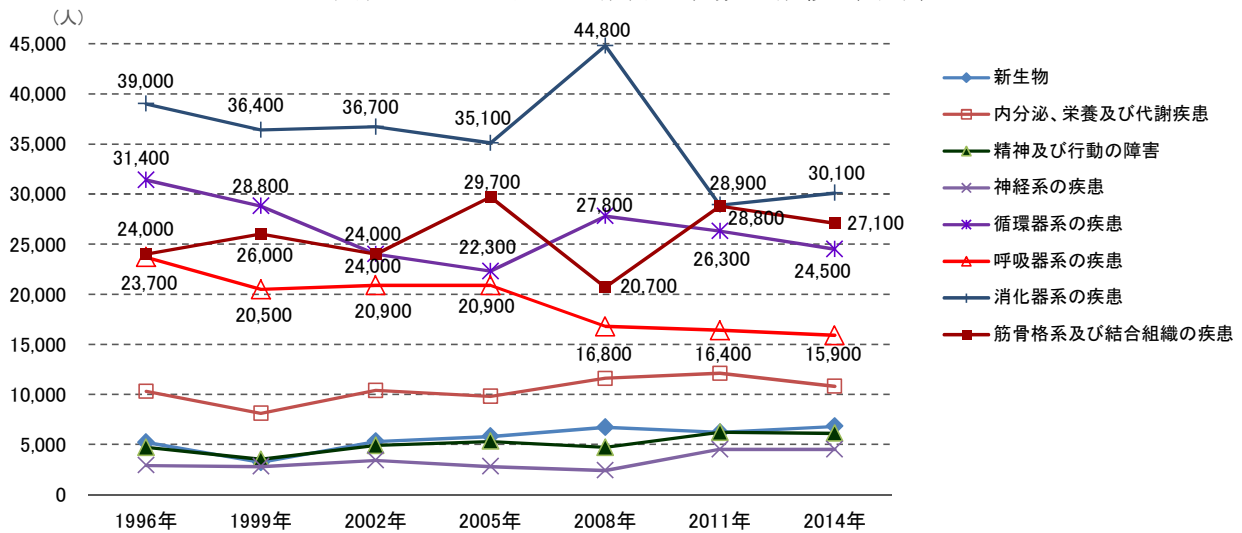
診療所：平成26年10月21日(火)、22日(水)、24日(金)のうち診療所ごとに指定した1日

図表 2-14 疾患別推計患者数の推移（入院）



(資料：厚生労働省「患者調査」)

図表 2-15 疾患別推計患者数の推移（外来）



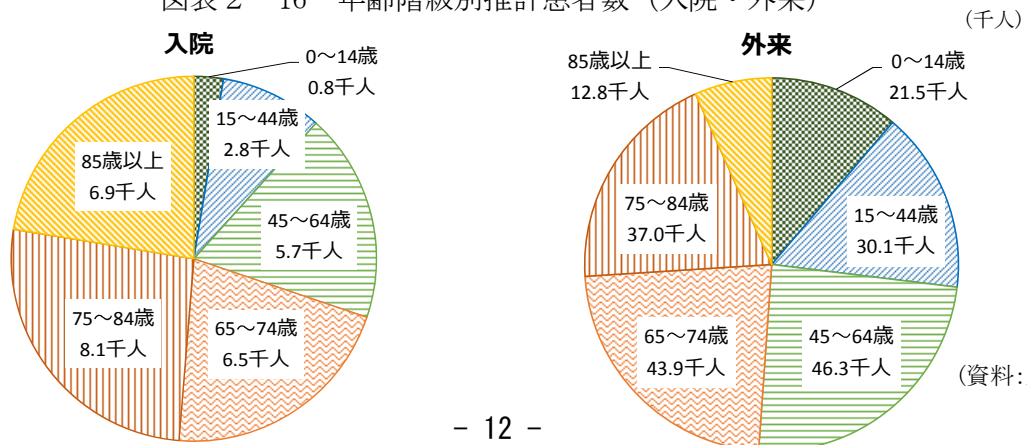
(資料：厚生労働省「患者調査」)

(3) 年齢階級別の推計患者数

○年齢階級別の患者数をみると、入院については、75歳～84歳が8,100人で最も多く、85歳以上が6,900人となっており、65歳以上が2万1,600人で全体の約3分の2となっています。

○外来については、45歳～64歳が4万6,300人で最も多く、次いで65歳～74歳が4万3,900人、75歳～84歳が3万7,000人となっています。65歳以上の割合は約49%となっています。

図表 2-16 年齢階級別推計患者数（入院・外来）



(資料：厚生労働省「患者調査」)

2 受療率

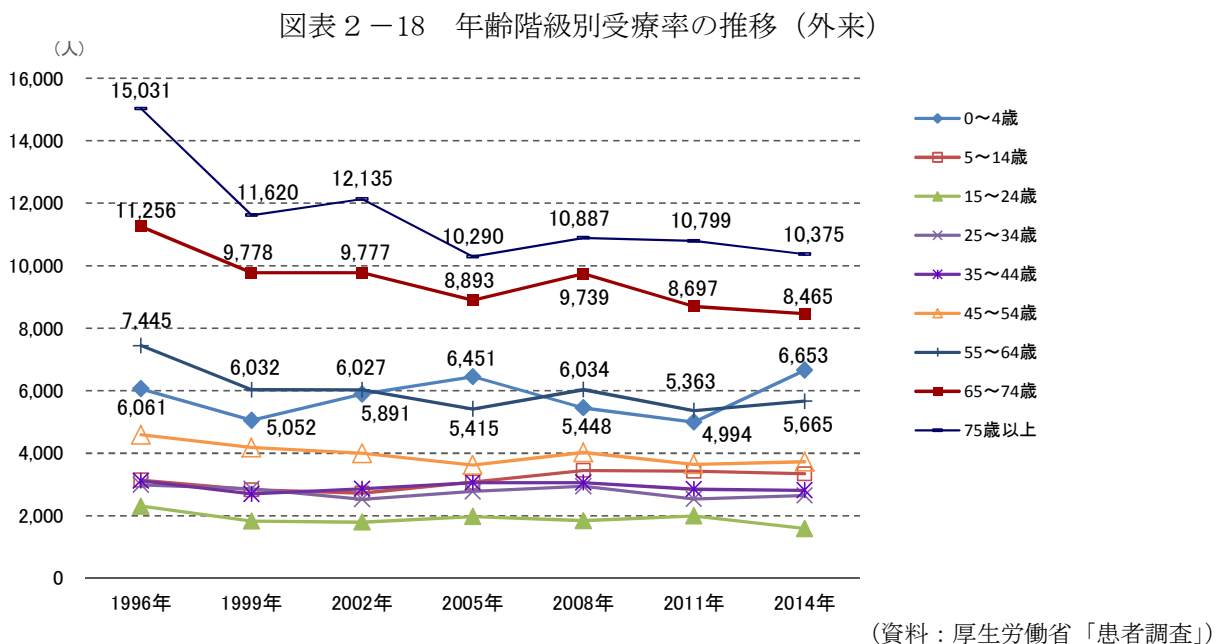
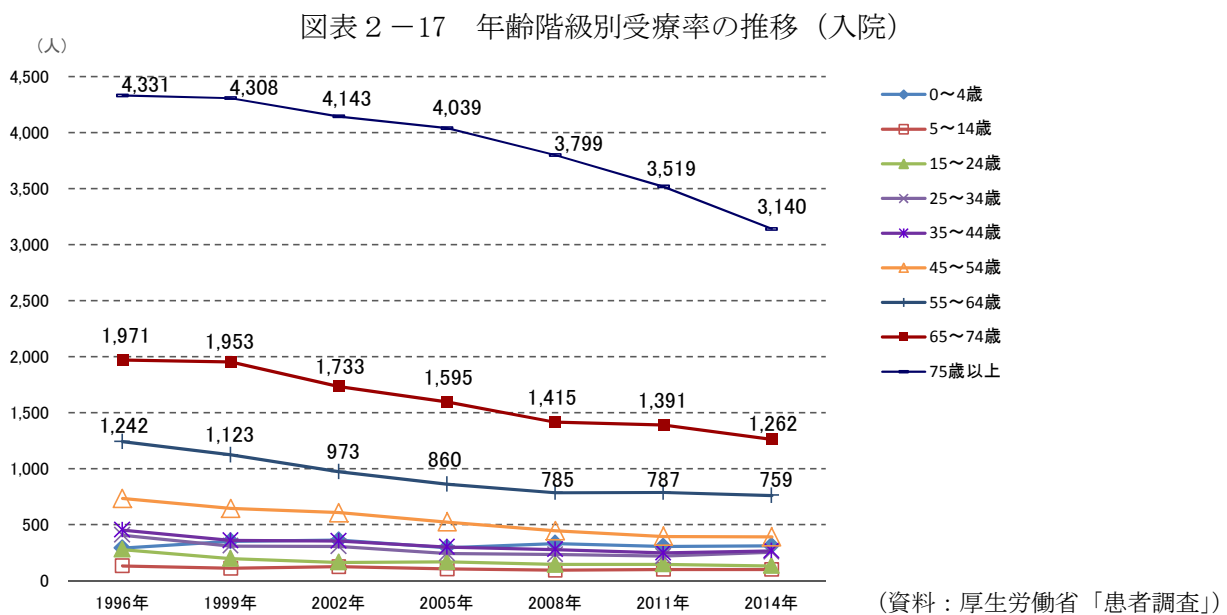
(1) 入院受療率・外来受療率

○2014年の患者調査から、本県の受療率²についてみると、入院受療率は836（全国平均1,038）、外来受療率は5,177（全国平均5,696）で、ともに全国平均より低くなっています（入院受療率は全国順位で低い方から7位、外来受療率は全国順位で低い方から11位）。

(2) 年齢階級別受療率

○年齢階級別に入院受療率をみると、75歳以上が3,140で最も高く、次いで65歳～74歳の1,262、55歳～64歳の759となっています。（図表2-17）

○外来受療率では、75歳以上が10,375で最も高く、次いで65歳～74歳の8,465、0歳～4歳の6,653となっています。（図表2-18）



² 推計患者数を人口10万対であらわした数。受療率(人口10万対) = 推計患者数 / 推計人口 × 100,000

3 県民意向調査

○2016年度に、保健医療関係の施設やサービスについての県民の利用実態や医療提供体制に関する要望を把握することを目的に、「静岡県の地域医療に関する調査」を実施しました。

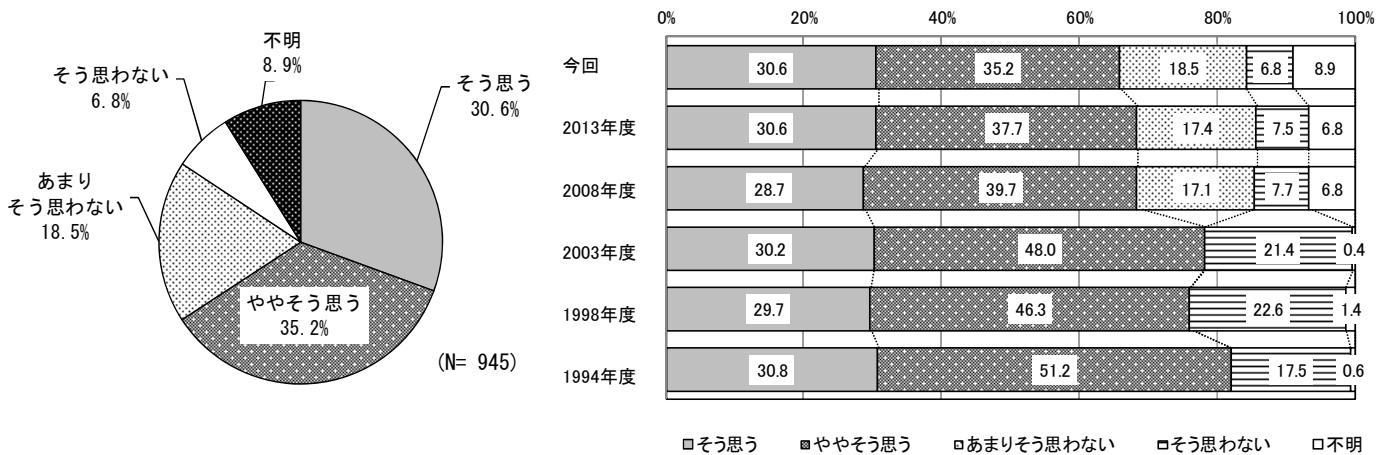
調査対象：静岡県全域
 標本数：静岡県内の市町に居住する満20歳以上の男女 1,500人
 回収数：945人（回収率63.0%）
 調査方法：郵送法
 調査時期：2016年12月

(1) 自身の健康状態

ア 自分が健康であると思うか

○自分が健康であると思うかについて、全体では「ややそう思う」が35.2%で最多、以下「そう思う」が30.6%、「あまりそう思わない」が18.5%となっています。「そう思う」と「ややそう思う」を合算した『そう思う』が65.8%を占め、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合算した『そう思わない』は25.3%に留まっています。

○過去比較との調査では、「そう思う」「ややそう思う」は、2008年度を境に70%台から60%台へと減少しています。また、「そう思わない」「あまりそう思わない」は、1998年度以降一貫して20%を超えています。

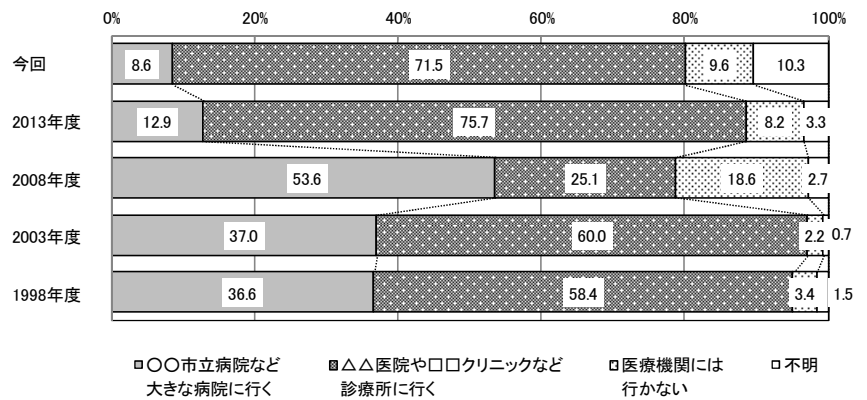
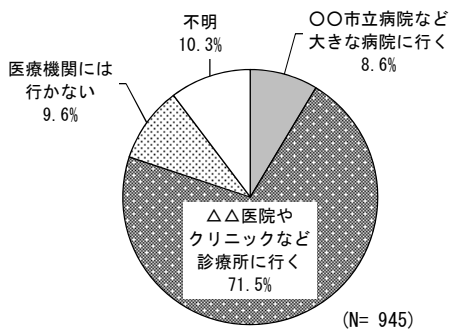


(2) 診療時間外の発病やけがについて

ア 軽い病気にかかったと思われる場合の対応

○軽い病気にかかったと思われる場合の受診先については、全体では「△△医院や□□クリニックなど診療所に行く」が71.5%を占め、以下「医療機関には行かない」9.6%、「〇〇市立病院など大きな病院に行く」8.6%と続いています。

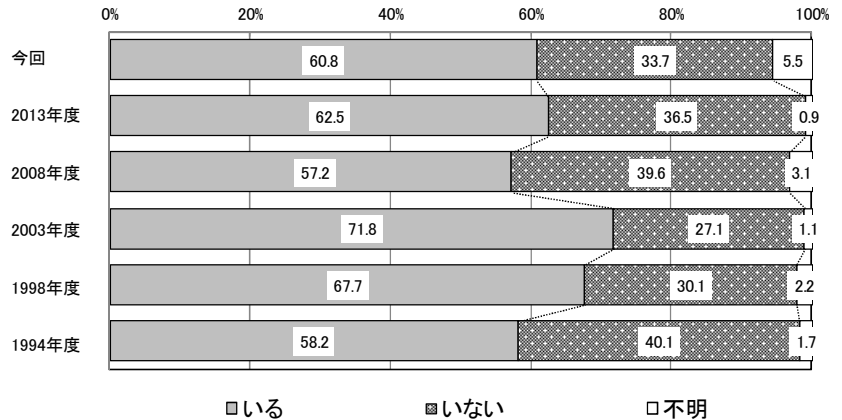
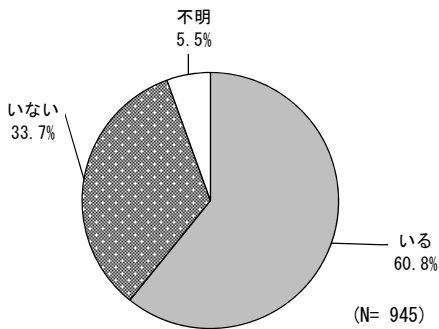
○過去比較との調査では、「〇〇市立病院など大きな病院に行く」は減少傾向に、また、「△△医院や□□クリニックなど診療所に行く」は増加傾向にあります。



(3) かかりつけ医

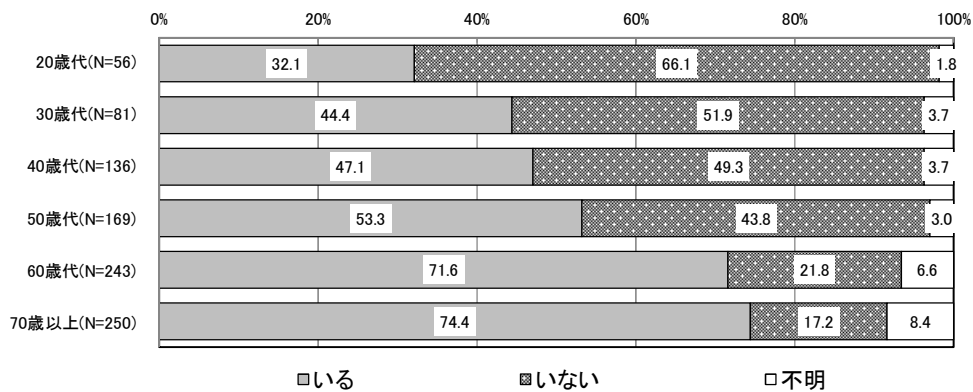
ア かかりつけ医の有無

○かかりつけの医師については「いる」が60.8%、「いない」が33.7%となっています。



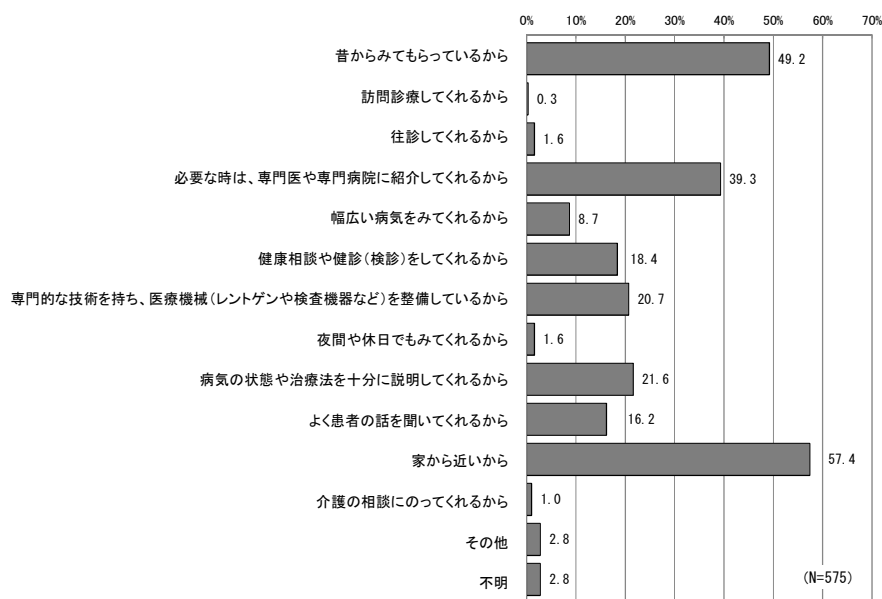
○年代別では、20歳代および30歳代では、「いない」が「いる」を大きく上回り、40歳代では「いる」と「いない」が同水準となっています。

○「いる」は年代が上がるにつれて増加し、60歳代および70歳以上では70%を超えています。



イ かかりつけになっている主な理由

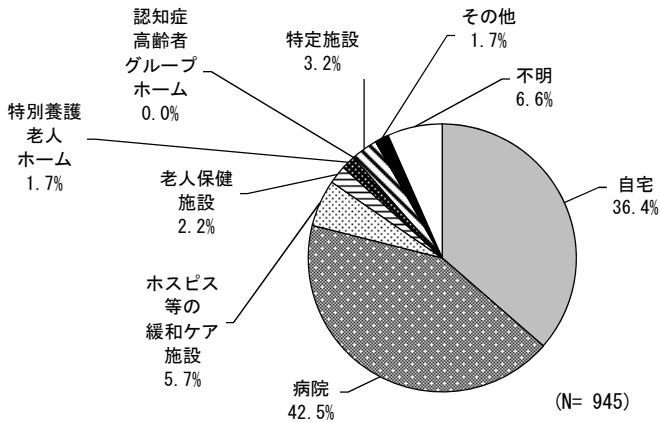
○「家から近いから」が57.4%で最多、以下、「昔からみてもらっているから」49.2%、「必要な時は、専門医や専門病院に紹介してくれるから」39.3%となっています。



(4) 在宅医療について

ア 長期療養を望む場所

○長期療養を望む場所について、全体では「病院」が42.5%で最多、以下「自宅」36.4%、「ホスピス等の緩和ケア施設」5.7%となっています。



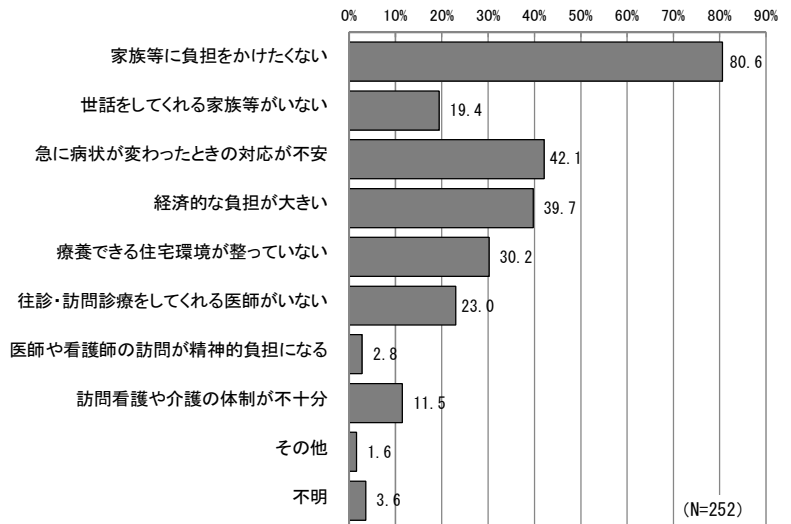
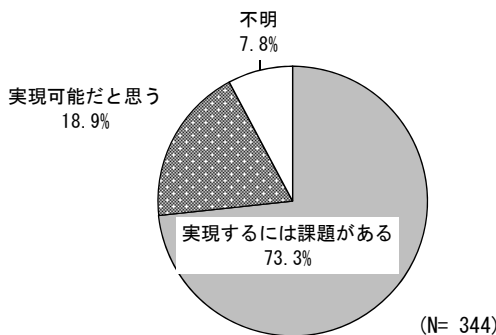
	今回	2013年度
自宅	36.4%	29.6%
病院	42.5%	52.1%
ホスピス等の緩和ケア施設	5.7%	
老人保健施設	2.2%	
特別養護老人ホーム	12.8%	1.7%
認知症高齢者グループホーム		0.0%
特定施設		3.2%
その他、無回答等	8.3%	4.1%

※2013年度の間は「長期入院が可能な病院」、「自宅」、「介護施設等の施設」

イ 自宅で長期療養することの実現可能性、課題と思うもの

○長期療養場所を「自宅」と回答した人にその実現可能性を尋ねたところ、全体では「実現するには課題がある」が73.3%、「実現可能だと思う」が18.9%となっています。

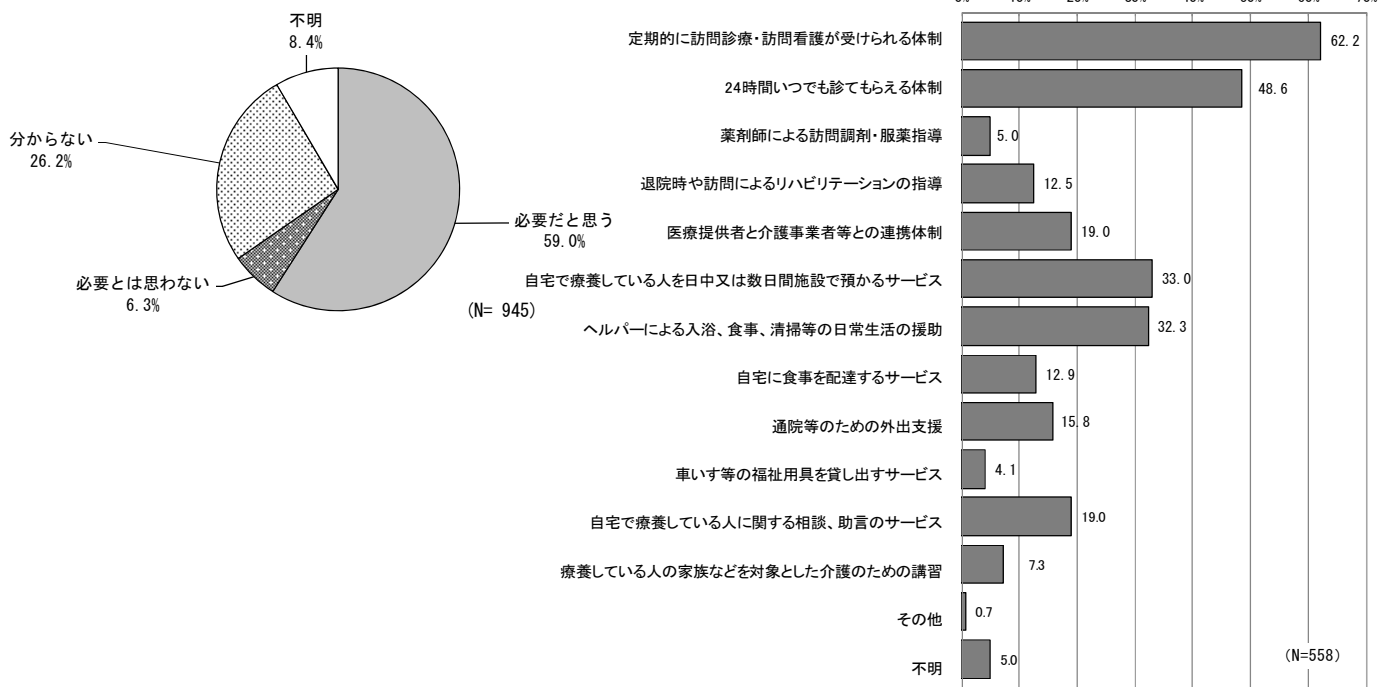
○「課題がある」と回答した人にその課題を尋ねたところ、全体では「家族等に負担をかけたくない」が80.6%で最多、以下「急に病状が変わったときの対応が不安」42.1%、「経済的な負担が大きい」39.7%となっています。



ウ 在宅医療の充実の必要性、整備が重要な体制

○在宅医療の充実について、全体では「必要だと思う」が59.0%、次いで「分からない」26.2%、「必要とは思わない」6.3%となっています。

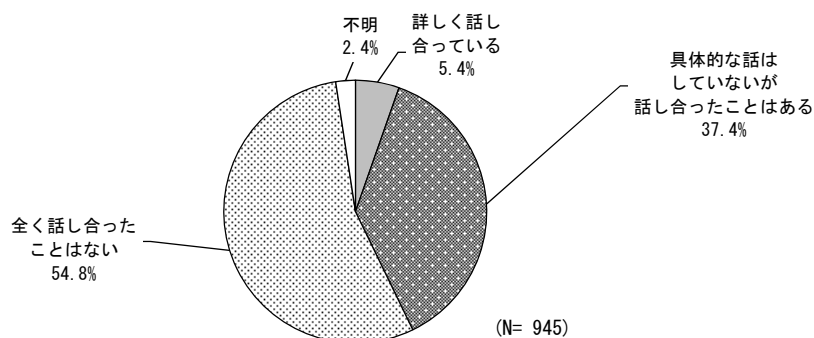
○「必要だと思う」と回答した人に整備が必要な体制について尋ねたところ、全体では「定期的に訪問診療・訪問看護が受けられる体制」が62.2%で最多、以下「24時間いつでも診てもらえる体制」48.6%、「自宅で療養している人を日中又は数日間施設で預かるサービス」33.0%となっています。



(5) 人生の最終段階における医療（終末期医療）について

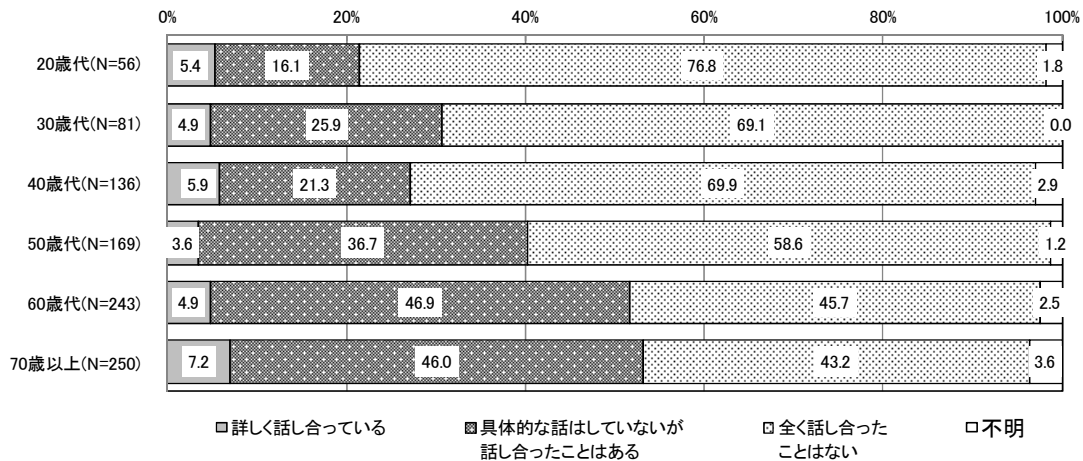
ア 終末期医療における家族や親族との話し合い状況

○終末期医療における家族や親族との話し合い状況について、全体では「全く話し合ったことはない」が54.8%で最多、以下「具体的な話はしていないが話し合ったことはある」37.4%、「詳しく話し合っている」5.4%となっています。



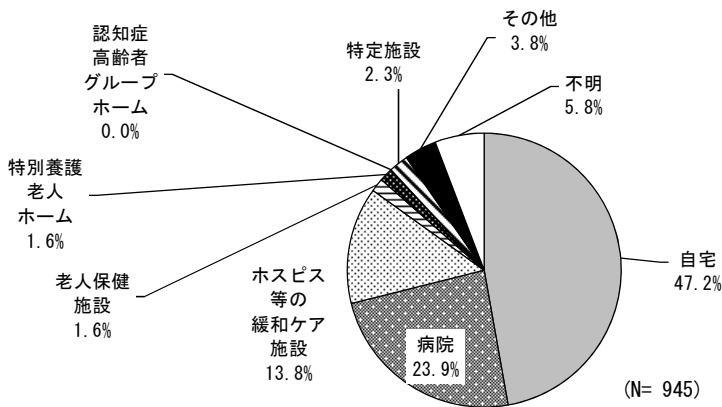
○年代別では、「全く話し合ったことない」は概ね年代が若いほど高く、20歳代から50歳代までは最多項目となっています。

○60歳代および70歳以上では、「具体的な話はしていないが話し合ったことはある」が「全く話し合ったことない」を上回っています。



イ 人生の最期を迎えたい場所

○人生の最期を迎えたい場所について、全体では「自宅」が47.2%で最多、以下「病院」23.9%、「ホスピス等の緩和ケア施設」13.8%となっています。



<経年変化>

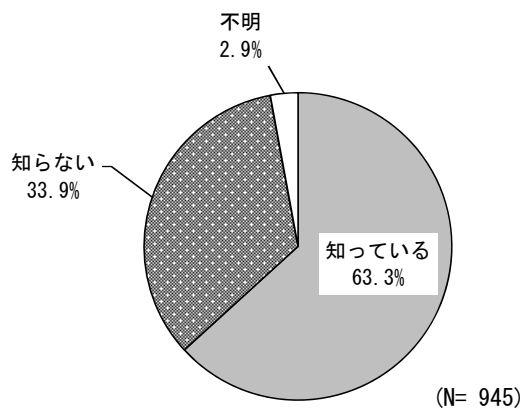
	今回	2013年度
自宅	47.2%	49.3%
病院	23.9%	29.9%
ホスピス等の緩和ケア施設	13.8%	
老人保健施設	1.6%	
特別養護老人ホーム	1.6%	15.2%
認知症高齢者グループホーム	0.0%	
特定施設	2.3%	
その他、無回答等	9.6%	5.6%

※2013年度の問は「長期入院が可能な病院」、「自宅」、「介護施設等の施設」

(6) 特定健診・特定保健指導について

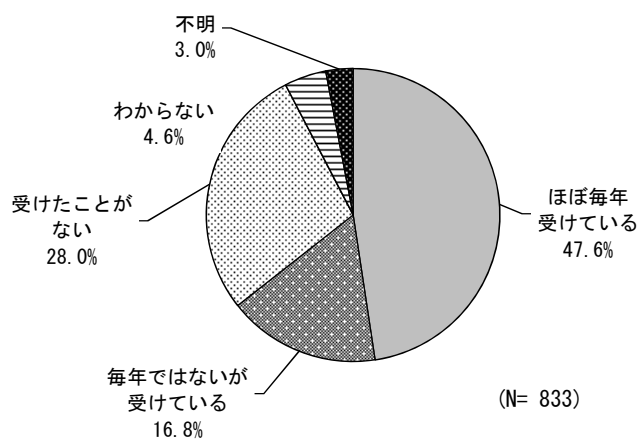
ア 特定健康診査や特定保健指導の認知度

○特定健康診査や特定保健指導について、全体では「知っている」が63.3%、「知らない」が33.9%となっています。



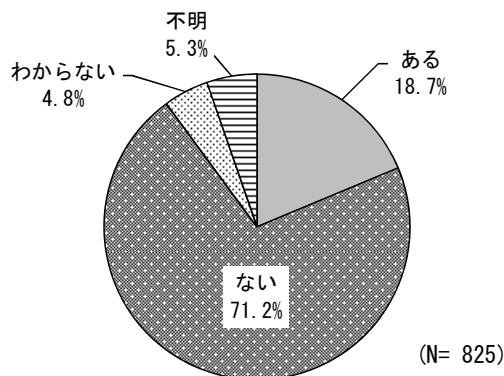
イ 特定健康診査の受診状況

○特定健康診査の受診状況について、全体では「ほぼ毎年受けている」が47.6%で最多、以下「受けたことがない」28.0%、「毎年ではないが受けている」16.8%となっています。



ウ 特定保健指導を受けた経験

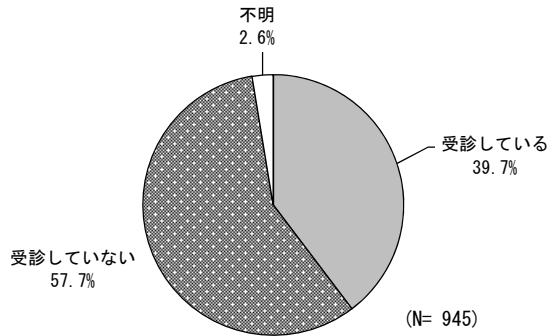
○これまでの特定保健指導を受けた経験については、「ない」が71.2%、「ある」18.7%となっています。



(7) 歯科・口腔ケアについて

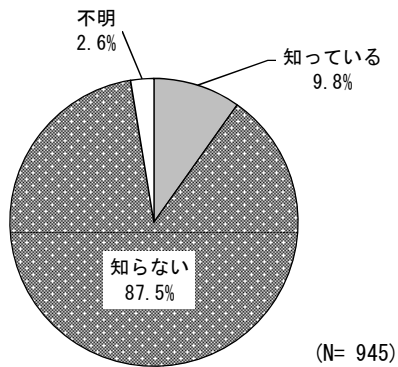
ア 歯垢除去や定期的な歯科健診の受診状況

○歯垢除去を含む定期的な歯科診療所について、全体では「受診していない」が57.7%、「受診している」が39.7%となっています。



イ 訪問診療を行う歯科診療所の場所の認知度

○訪問診療を行う歯科診療所の場所について、全体では「知らない」が87.5%、「知っている」が9.8%となっています。



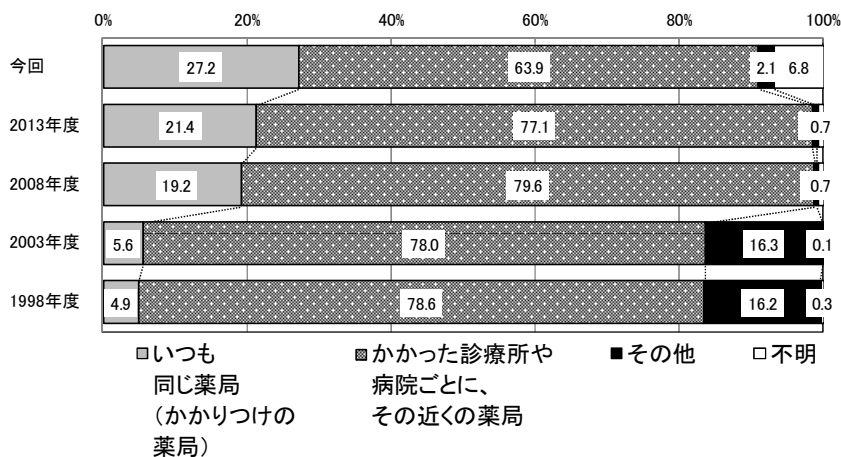
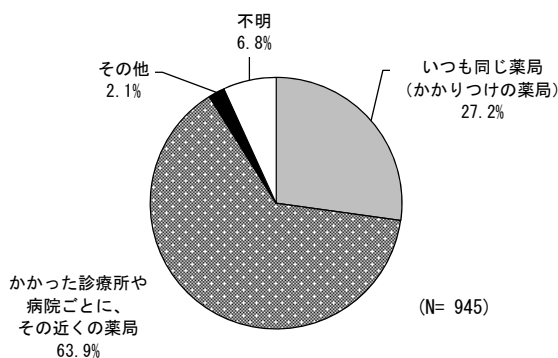
(8) 薬局について

ア 調剤してもらふ薬局

○調剤薬局について、全体では「かかった診療所や病院ごとに、その近くの薬局」が63.9%、「いつも同じ薬局（かかりつけの薬局）」27.2%となっています。

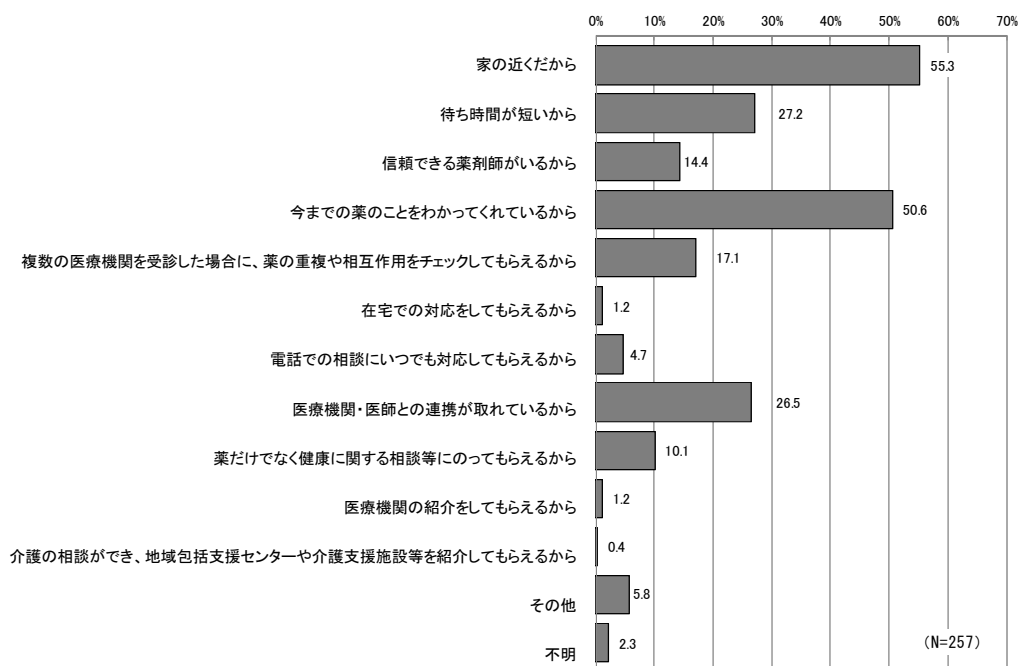
○過去調査との比較では、2008年度を境に「いつも同じ薬局（かかりつけの薬局）」が徐々に増加しています。

○「かかった診療所や病院ごとに、その近くの薬局」は今回15ポイント近く減少しています。



イ かかりつけの薬局を選んだ理由

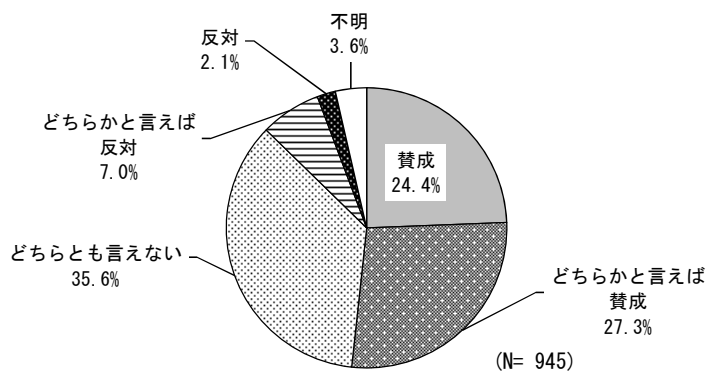
○「いつも同じ薬局（かかりつけの薬局）」と回答した人にその理由について尋ねたところ、全体では「家の近くだから」55.3%、「今までの薬のことをわかってくれているから」50.6%、「待ち時間が短いから」27.2%、「医療機関・医師との連携がとれているから」26.5%となっています。



(9) 今後の地域医療体制について

ア それぞれの医療機関の機能に応じて役割分担して治療すること

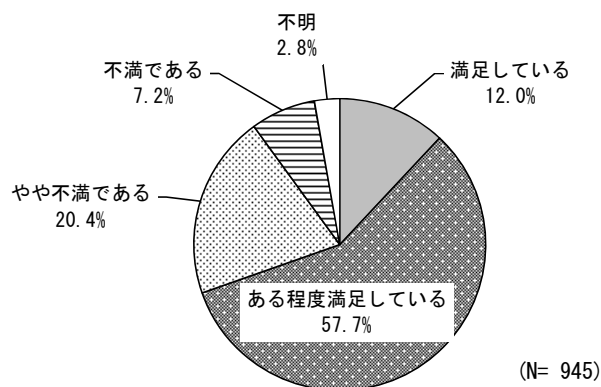
○それぞれの医療機関の機能に応じて役割分担して治療することについて、「賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合算した『賛成』は51.7%となっています。以下、「どちらとも言えない」35.6%、「どちらかと言えば反対」7.0%、反対2.1%となっています。



イ 居住地域の医療機関の整備状況

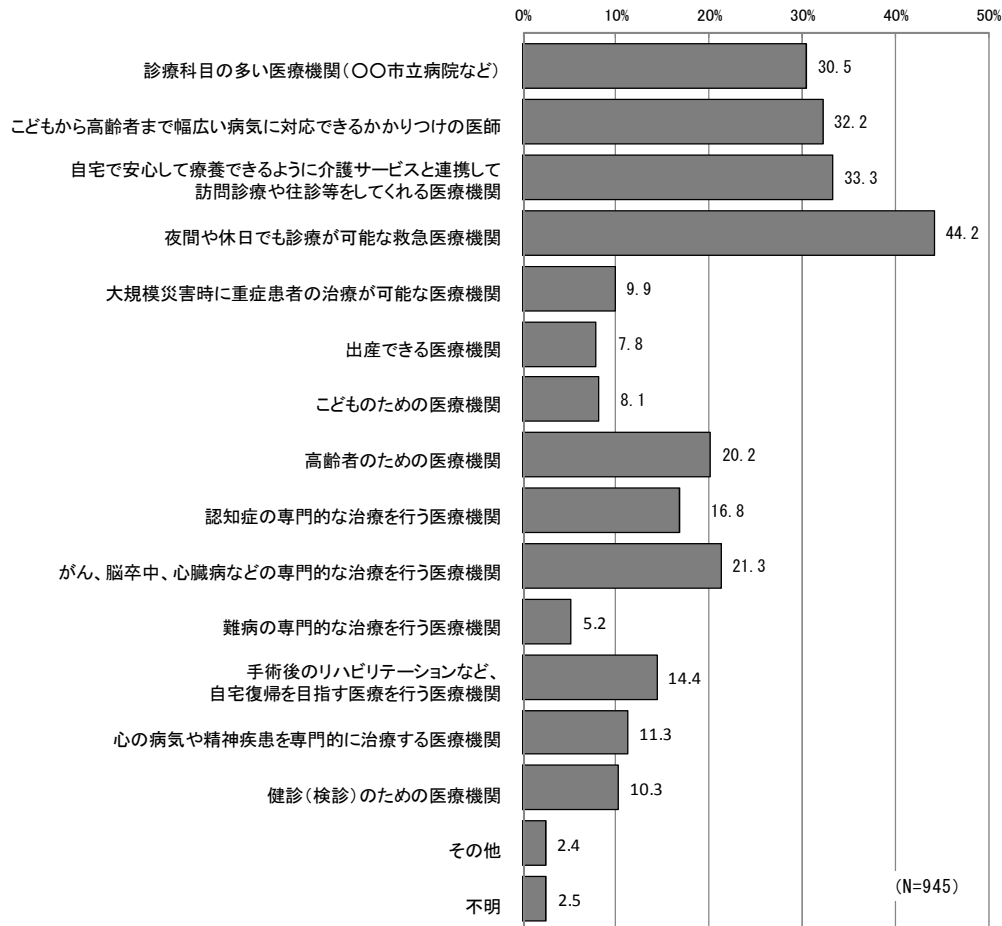
○居住地域の医療機関の整備状況について、全体では「ある程度満足している」が57.7%で最多、以下「やや不満である」20.4%、「満足している」12.0%となっています。

○「満足している」と「ある程度満足している」を合算した『満足』は69.7%となっています。



ウ 今後特に整備充実を図るべき医療体制

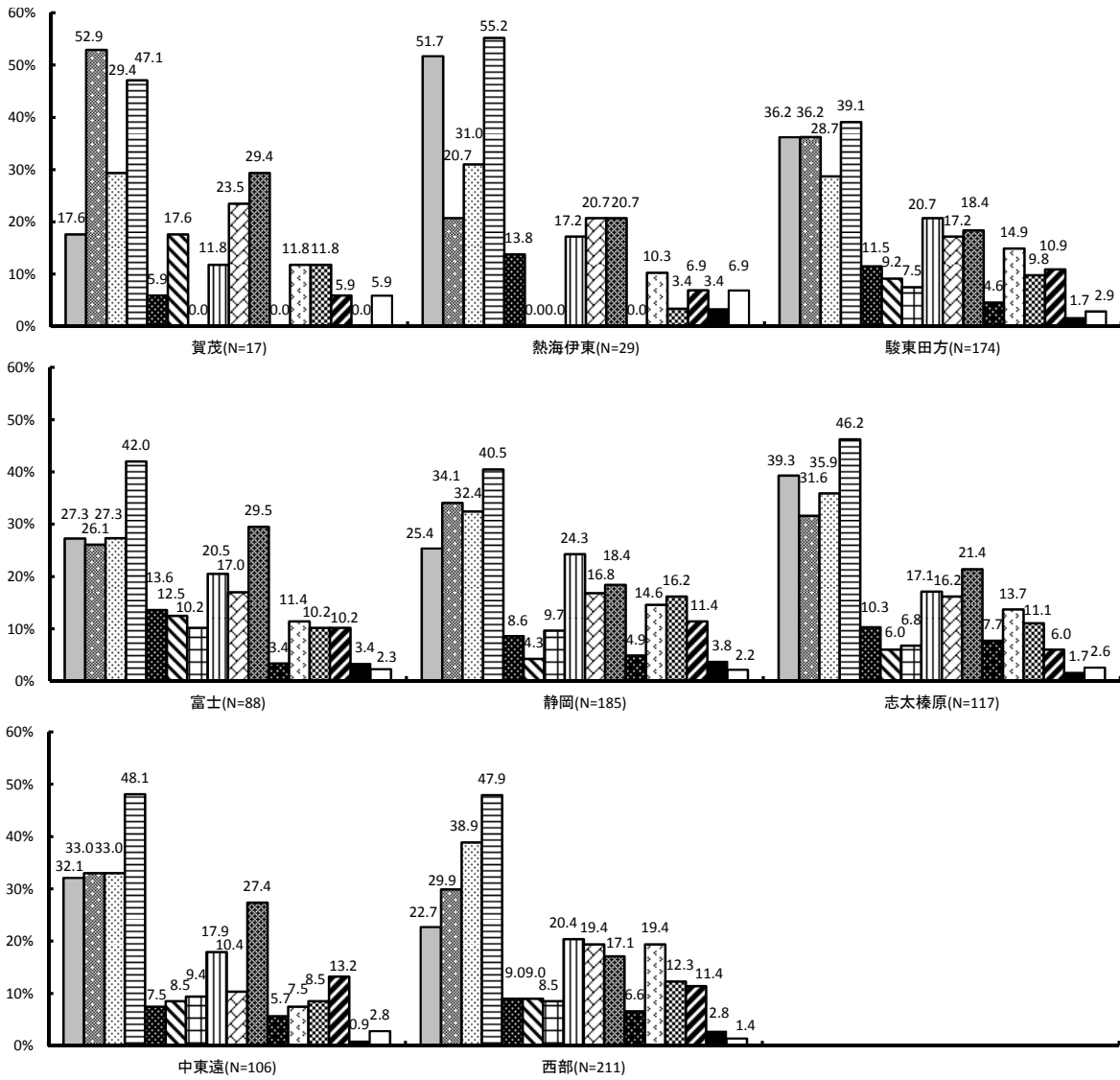
○今後特に整備充実を図るべきだと思う医療体制について、全体では「夜間や休日でも診療が可能な救急医療機関」が44.2%で最多、以下「自宅で安心して療養できるように介護サービスと連携して訪問診療や往診等してくれる医療機関」33.3%、「こどもから高齢者まで幅広い病気に対応できるかかりつけの医師」32.2%となっています。



< 2次保健医療圏別 >

- ・賀茂では「こどもから高齢者まで幅広い病気に対応できるかかりつけの医師」が5割以上で最多となっています。それ以外の圏域では「夜間や休日でも診療が可能な救急医療機関」が最多となり、特に熱海伊東では5割半ばと高めとなっています。
- ・他の項目では、「診療科目の多い医療機関(〇〇市立病院など)」が熱海伊東で5割以上、「がん、脳卒中、心臓病などの専門的な治療を行う医療機関」が賀茂、富士で3割弱となっています。

- 診療科目の多い医療機関(〇〇市立病院など)
- こどもから高齢者まで幅広い病気に対応できる かかりつけの医師
- 自宅で安心して療養できるように介護サービスと連携して訪問診療や往診等をしてくれる医療機関
- 夜間や休日でも診療が可能な救急医療機関
- 大規模災害時に重症患者の治療が可能な医療機関
- 出産できる医療機関
- こどものための医療機関
- 高齢者のための医療機関
- 認知症の専門的な治療を行う医療機関
- がん、脳卒中、心臓病などの専門的な治療を行う医療機関
- 難病の専門的な治療を行う医療機関
- 手術後のリハビリテーションなど、自宅復帰を目指す医療を行う医療機関
- 心の病気や精神疾患を専門的に治療する医療機関
- 健診(検診)のための医療機関
- その他
- 不明



第3節 医療資源

1 病院及び診療所の概況

(1) 病院

○2017年4月1日現在、病院数は181施設、病床数は38,910床で、2012年と比較して244床少なくなっています（図表2-18、2-19）。

○病床の種類については、一般病床が21,142床、療養病床が10,871床、精神病床が6,741床で、人口10万人当たりの一般病床数は575.3床です。

(2) 診療所

ア 一般診療所

○2017年4月1日現在、一般診療所数は2,762施設で、このうち有床診療所が205施設あります。病床数は2,177床で、2012年と比較して587床少なくなっています（図表2-18、2-19）。

○人口10万人当たりの一般診療所数は、75.2施設です。

イ 歯科診療所

○2017年4月1日現在の歯科診療所数は、1,792施設です（図表2-18）。

○人口10万人当たりの歯科診療所数は、48.8施設です。

図表2-18 医療施設（病院・診療所）数の推移 (単位：施設)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
病院数	183	183	182	183	181	181
一般診療所数	2,740	2,743	2,745	2,737	2,746	2,762
有床	280	267	246	230	216	205
無床	2,460	2,476	2,499	2,507	2,530	2,557
歯科診療所数	1,792	1,787	1,795	1,801	1,806	1,792

(各年4月1日現在：県医療政策課調べ)

図表2-19 使用許可病床数の推移 (単位：床)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
病院	39,154	39,252	38,800	38,937	38,861	38,910
一般病床	21,334	21,463	21,122	21,004	21,083	21,142
療養病床	10,608	10,530	10,582	10,897	10,871	10,871
精神病床	6,986	7,033	6,880	6,870	6,751	6,741
結核病床	178	178	168	118	108	108
感染症病床	48	48	48	48	48	48
一般診療所	2,764	2,714	2,523	2,415	2,295	2,177
歯科診療所	5	5	5	3	3	0

(各年4月1日現在：県医療政策課調べ)

2 医療人材の概況

(1) 医師

○2016 年末における本県の医師数(医療施設従事者)は 7,404 人で、2012 年末と比べて 437 人増加しています。

○人口 10 万人当たりでは 200.8 人で、全国平均の 240.1 人と比較すると 39.3 人下回っています。

(2) 歯科医師

○2016 年末における本県の歯科医師数(医療施設従事者)は 2,318 人で、2012 年末と比べて 58 人増加しています。

○人口 10 万人当たりでは 62.9 人で、全国平均の 80.0 人と比較すると 17.1 人下回っています。

(3) 薬剤師

○2016 年末における本県の薬剤師数(薬局及び医療施設従事者)は 6,231 人で、2012 年末と比べて 620 人増加しています。

○人口 10 万人当たりでは 169.0 人で、全国平均の 181.3 人と比較すると 12.3 人下回っています。

(4) 看護師

○2016 年末における本県の就業看護師数は 31,000 人で、2012 年末と比べて 3,373 人増加しています。

○人口 10 万人当たりでは 840.6 人で、全国平均の 905.5 人と比較すると 64.9 人下回っています。

図表 2-20 医療人材の推移

(各年12月31日現在。単位：人)

		2012年	2014年	2016年
医師数 (医療施設従事者)	静岡県	6,967 (186.5)	7,185 (193.9)	7,404 (200.8)
	全国	288,850 (226.5)	296,845 (233.6)	304,759 (240.1)
歯科医師数 (医療施設従事者)	静岡県	2,260 (60.5)	2,268 (61.2)	2,318 (62.9)
	全国	99,659 (78.2)	100,965 (79.4)	101,551 (80.0)
薬剤師数(薬局及び 医療施設従事者)	静岡県	5,611 (150.2)	5,883 (158.8)	6,231 (169.0)
	全国	205,716 (161.3)	216,077 (170.0)	230,186 (181.3)
就業看護師数	静岡県	27,627 (739.4)	29,174 (787.4)	31,000 (840.6)
	全国	1,015,744 (796.6)	1,086,779 (855.2)	1,149,397 (905.5)

※ () 内は人口10万人当たり

資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、衛生行政報告例